

美加理の舞・種子田郷の音楽融合

「魑魅魍魎と出合う場に」

女優の美加理の舞と、種子田郷の音楽によるパフォーマンス「Flowers」が26、27日、東京の青山山形劇場である。テーマは現代の祝祭と鎮魂。木の切り株やクバの葉、録音した雨音やカエルの声を持ち込んで、「自然の中の魑魅魍魎と出合える場」を現出させようとする。

美加理はこの冬、富士山のおもとの朝霧高原に20日ほど滞在し、一人でけいこに取り組んだ。川の水を飲み、地に寝そべることで、

26・27日「Flowers」

自然とつながる回路が開かれたという。

17年在籍したク・ナウカシアターカンパニーが休止して約1年。「何かを演じるといふより、媒介者として中空の竹のような状態であることが、私の資質には合っている気がします」と語る。「観客のみなさんも、何かを見なければという感覚を忘れ、そこで起きる事象と一体化してほしい」

種子田はコンピューターを使って立体的な音空間を作り出し、森山開次、室伏鴻らパフォーマーとも共演してきた。音響デザインの宮本幸と共に、客席に16本のスピーカーを立て、床から天井に音が立ち上る効果を狙う。

当日は美加理の動きに合わせて音量やタイミングをはかり、コンピューターによる「生演奏」をする。「音楽と体がせめぎ合いを合って、繰り返す波を作り出せたらと思う」

各日午後7時開演、4千円。問い合わせは03・3797・5678(会場)。



美加理(右)と種子田郷